

# 幼児教育長期派遣通信 2学期号

発行 令和5年1月31日

尾道市立因北小学校 畠倉 千尋（派遣園・所：広島大学附属三原幼稚園）

1学期号では、環境構成や教師の援助の工夫によって、子供たちが遊びを通して主体的に自己を発揮する姿についてお伝えしました。2学期号では、園で主体的に遊ぶ子供たちの姿を通して、小学校でどのように学びをつなげばよいのか、また、幼児期の学びをつなげるためのスタートカリキュラム作成において、重視したい点を考えました。

## 1 2学期の研修内容

### (1) 園内研修

- ・3～5歳児の観察
- ・園内の環境整備
- ・幼小中合同研修会
- ・幼小接続期部会
- ・派遣園行事（遠足，年長スペシャルデー，やきいも，避難訓練，研究会等）

### (2) 園外研修

- ・幼児教育理解に係る研修会
- ・接続に係る研修会
- ・長期派遣研修報告会
- ・所属校還元研修
- ・広島県乳幼児期の教育・保育研究協議会
- ・所属校に入学してくる園児の実態把握
- ・園・所内研修を充実させるための研修会
- ・乳幼児の育ちや学びを考える研修会
- ・所属校公開研究会

## 2 研修を通して

### 園・所で育ってきた力を小学校につないでいくためのキーワード

安心して自己を発揮できる環境

子供たちの思いや願いを大切にした教師の関わり方

ワクワク感や達成感を持てるような授業づくり

### 事例：先生よりも高く積み上げたいな

A児は紙コップコーナーで紙コップを積み重ねている。一番下の段は紙コップが3つ、ピラミッドのように重ねていた。「Aね、先生より高くしたいんよ！」A児はそう言いながらどんどん重ねていく。「先生より高く！？それは見てみたいなあ。」そう答えると、A児は「見てて！任せて！」と言う。しかし、3段積み重ねたところで、A児は手を止めた。「どうやって高くしよう…。」1番上の段の紙コップは1こで、下の段と同じようには積み重ねられない。A児は紙コップを逆さまにして重ねていく。しかし、3つくらい重ねたところで紙コップは崩れてしまう。「あー、壊れちゃった。でもまた初めからすればいいよね。」バラバラに散らばった紙コップを集め、A児はまた1から作り直し始める。さっきと同じところまで積み重ねたところで、A児は近くで同じようにピラミッドを作っていたB児の方に目を向けた。B児はピラミッドを高くするために、一番下の段から1こずつ紙コップを増やして重ねていた。「そっか！そうすればいいのか！」そう言ってB児と同じように紙コップを下段から増やし始める。段々高さが増し、ついにA児の身長と同じくらいの高さまで積み重ねることができた。「すごいね！頑張ってる！」「Aちゃん、ちょっと背比べさせて！」A児が積み重ねた紙コップの周りに数人集まって来て口々にそう話していた。

しばらくして、「先生、高くてたわんくなかった。」とA児が話しかけてくる。「本当だ。すごく高くなったから、手が届かんね。どうしたらいいかな？」そう答えると、「台とかあったら…。」とA児が言う。「あれはどう？」と近くにあった巧技台を指さすと、「あっ、いいかも！」とピラミッドのそばに持ってきた。途中、何度も壊れながらも諦めずに重ね続け、最後には21段の大きなピラミッドを作ることができた。「先生よりもずっと高くできたよ！」A児は嬉しそうに笑顔を浮かべた。

### 資質・能力の芽生え

#### 意欲

自分なりの目標をもって取り組んでいる。

子供の思いや願いを支え、見守る

繰り返し挑戦できる  
時間の保障

失敗しても大丈夫と安心して活動している。

安心して活動できる  
クラスの雰囲気

粘り強さ

気付く

友達の姿を見て遊びの幅を広げている。

共に成長できる  
友達の存在

友達との関わり

友達のことを応援したり、喜び合ったりしている。

どうしたらよいか自分で考えている。

考える力

子供の思いや願いに寄り添い、考えることを支える



## 幼児期の経験をつなぐスタートカリキュラム



安心できる  
学級づくり

**園** 保育者は、子供たちの思いに寄り添い、受容的な態度で接し、活動を見守っています。受け止めてもらえる安心感が子供たちとの信頼関係を築き、主体的に自己を発揮する姿につながっていました。



**小** 1日のスタートを楽しく安心して始められるよう、弾力的に時間を設定し、園で慣れ親しんだ活動を取り入れたなかよしタイムを設定します。また、できたことが評価されるだけでなく、できないことが許される雰囲気や環境を大事にすることで、安心して自己発揮できる学級づくりをしていきます。



思いや願いを  
生かした  
学習活動

**園** 子供たちの「やってみよう。」を大切に、それらを価値づける保育者の働きによって、子供たちは活動に没頭し、学びを深めていました。また、小さな失敗体験や成功体験を大切に環境を積み重ねることで、粘り強く取り組める力や友達同士で協力して解決できる力が育まれていました。



**小** 子供たちの思いや願いから学習が始まったり、子供たちが自ら生活の中で見つけた疑問を解決したりすることで、学びにワクワク感を取り入れ、学ぶことへの意欲を高めていきます。子供のつづやきを大切に、そこにある思いや願いから学びの芽を見出して、主体的に活動できるよう単元を計画していき、満足感や達成感のある学習活動を仕組んでいきます。



学びをつなぐ  
振り返り

**園** 保育者と共に活動を振り返る中で、いいところやこれまでとの違いを見つけたり、疑問や困り感を共有したりし、より主体性を持って活動に取り組めるようにしていました。また、振り返りを行うことで、次への見通しを持つ力も育まれていました。



**小** 児童同士が考え、疑問や困り感を解決していくことを大切にした学習の振り返りを行い、次時への学習につなげます。また、振り返りの中で、自分の気持ちだけでなく、友達の思いにも関心を広げることで、活動への理解や意欲を深めていけるようにします。

### 3 まとめ

子供たちは、日々の遊びの中で様々なことを学んでいます。そこには子供たちの思いや願いが詰まっており、そこを大切にされた教師のかかわり方と、きっかけとなる様々な体験を大切にされた活動が子供たちの主体的に自己を発揮する姿につながると考えます。そして、それを支えるのが、安心できる環境だと考えます。今後は、「安心」と思いや願いを生かした「ワクワクする活動」を軸としたスタートカリキュラムの改善に取り組んでいきます。

#### 〈乳幼児教育支援センターより〉

幼児期は、遊びを通して様々な人やもの、ことと出会い、多くのことを知らず知らずのうちに学んでいます。このような環境を通して行う教育は、幼児の主体性と保育者の意図がバランスよく絡み合っており成り立っています。小学校においても、子供理解のもと、子供が夢中になれる、子供にとって学ぶ意義のある活動の工夫が必要です。